



Management Message

副理事長
寺田 吉道

今年、令和4年(2022年)から丁度150年前、明治5年(1872年)に我が国で初めての鉄道が開通されましたが、この年には鉄道だけでなく政府と産業界の肝いりによって交通運輸の近代化を企図した陸運会社、海運会社も相次いで設立されています。明治の黎明期において人流物流の社会基盤整備が如何に重視されていたかが窺えます。人や物の往来を盛んにして社会経済を発展させることの意義が十分に意識されていたのだと思います。

それから150年。我が国の交通運輸分野は飛躍的な発展を遂げてきました。鉄道については、在来線網を全国に展開して通勤通学・ビジネス・観光などあらゆる場面で国民生活と経済社会を支えるとともに、新幹線により世界に先駆けて高速鉄道ネットワークの有用性を示しました。船舶についても、例えば内航海運は産業基礎物資輸送や離島航路など我が国産業や地域の生活を担う存在として、いつの時代でも不可欠な役割を果たしてきました。バス、トラック、航空機、物流倉庫など交通運輸に関わる全ての分野が現在の日本になくはない存在となっています。150年前の明治の先人たちが現在のこの状況を見たら何と言うのでしょうか。発展ぶりを褒めてもらえるのか、それとも未解決の課題や問題点について厳しい叱咤激励を受けるのか、どちらでしょうか。

明治以来の交通運輸の発展には当然のことながら多くの先人、先輩の努力がありました。安全性の確保は常に最優先の課題ですが、これまで多数の痛ましい事故が発生し、その都度安全性向上のための技術面、制度面双方での取り組みが積み重ねられてきました。運行時だけでなく建設工事の際の事故防止にも多年にわたりさまざまな改善が施されてきました。また、災害への備えや被災時の復旧についても先人の苦闘がありました。もちろん高速化や快適性の確保など利便性向上にも多くの先輩が果敢に挑戦し、世界に誇る成果を上げてきました。

今、令和の時代を迎えて交通運輸も現代的な課題に直面しています。少子高齢化と人口減少により若年層の就労者が減少していく中、如何にしてこれまで蓄積された技術やノウハウを継承発展させていくか。鉄道整備に当たって自治体や地域の方々などと如何にしてコミュニケーションをとっていくべきか。関係業界に閉じこめるのではなく、広く一般の皆さんに交通運輸の重要性や当機構の役割についてご理解いただくためにはどうしたら良いのか。先人、先輩の大きな遺産をしっかりと次代に伝えつつ、次の150年後に交通運輸分野の仕事に携わる人々から見て、私たちの時代の当機構の取り組みが恥ずかしくないものとなるよう、気持ちを新たに背筋を伸ばして日々の業務に臨みたいと思います。